

美和ダム 三峰川バイパスの試験運用速報（その2）

2006/7/24
国土交通省中部地方整備局
三峰川総合開発工事事務所

放流の速報

注）ここに表示されているデータは速報値です。

美和ダムでは、総雨量253.3mm（2006/7/17 3:00～7/19 18:00）の雨が降り、最大流入量が約370m³/sの洪水となり、2006/7/18 15:00～7/20 14:00の約47時間、三峰川バイパスから最大242m³/sの放流を行ないました。

【速報値】

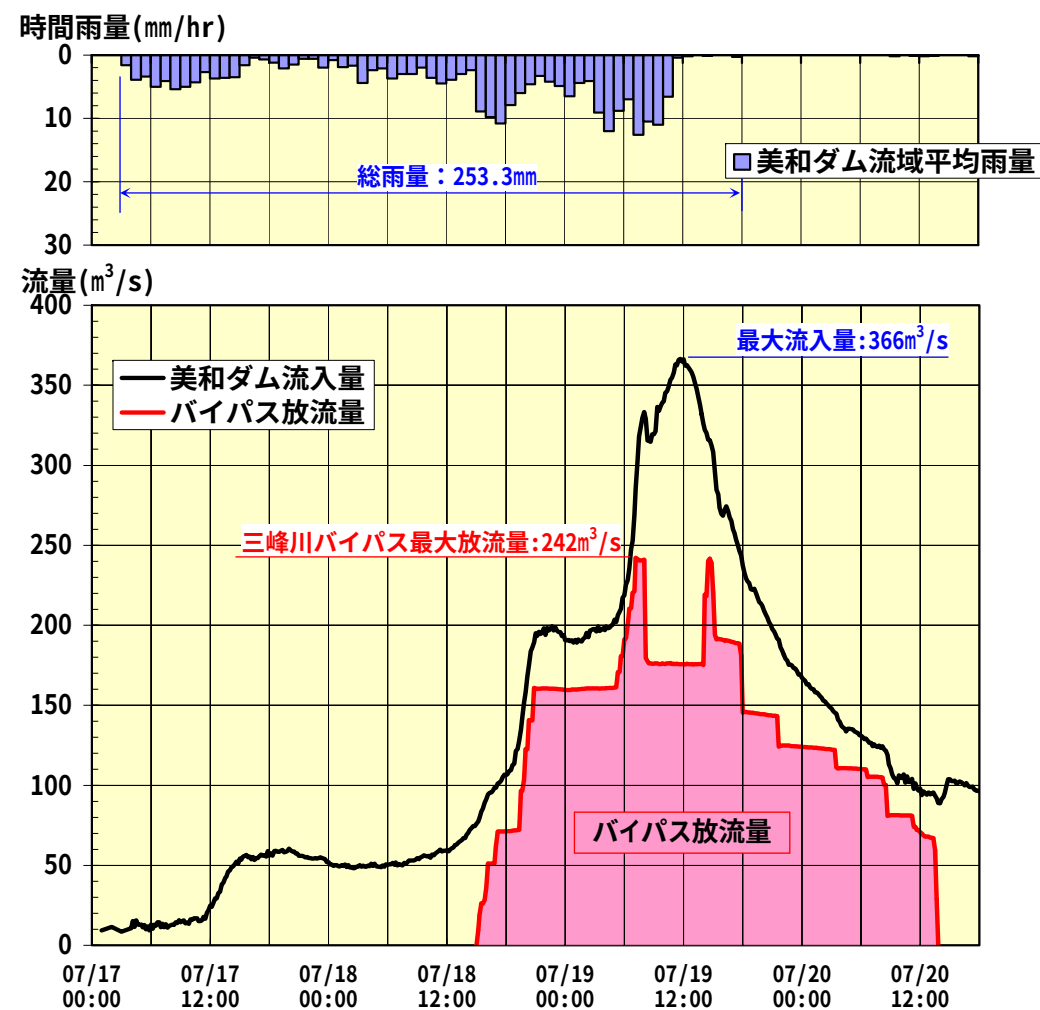
三峰川バイパス最大放流量	：242 m ³ /s（2005/7/19 7:10）
美和ダム最大流入量	：366 m ³ /s（2005/7/19 11:40）
美和ダム最大放流量	：289 m ³ /s（2005/7/19 15:40）
総雨量（流域平均）	：253.3 mm（2005/7/17 3:00～7/19 18:00）



放流量の時間変化

三峰川バイパスからの放流量の時間変化は、以下の図のとおりです。

今回の洪水では、流入量が100m³/sを超えてから100m³/sを切るまでの時間に三峰川バイパスの試験運用を行ない、上流域からの流入（黒線）に対して三峰川バイパスの放流（赤線、ピンク塗りつぶし）により、美和湖に流入する濁った水を下流へバイパスすることができました。



洪水時の濁り（SS）の状況（バイパス最大放流

上流の飯島堰堤から流入してきた水はSS※約17,000mg/ℓと濃いものでしたが、貯砂ダムと三峰堰で粗い土粒子が捕捉され、三峰堰を超えて美和湖に入る水はSS※約10,000mg/ℓに薄くなりました。

また、三峰川バイパスを流下した水はSS※約12,000mg/ℓになっており、施設完成以前は美和湖で堆積していた土砂が捕捉あるいはバイパスされ、美和湖への土砂流入を軽減させたと思われます。

注）SS・流量は、2006/7/19 AM8:00の値を表示しています。



<語句説明>

※SS（浮遊物質）…SSとは、水中に浮遊する粒径2mm以下の不溶解性の粒子状物質の濃度のことで、水の濁りの度合いを表す指標として用いられています。

試験運用後の点検結果速報

試験運用後、三峰川バイパス内の簡易点検を実施しましたが、異常はありませんでした。今後、詳細な点検を実施する予定です。

下流河川環境への影響

洪水前、洪水時の河川の状況(三峰川7.8km 伊那市下山田地先)



洪水前の状況（6月30日）



洪水時の状況（7月19日10時）



三峰川バイパス内の状況

下流河川環境へのバイパス放流の影響を評価するため美和ダムのゲート放流終了後速やかに環境調査をすることとしています。